



LS 研総合発表会 2016

2016年6月9日(木)、東京・台場にあるホテル グランパシフィック LE DAIBA(現:グランドニッコー東京 台場)にて、LS 研総合発表会が開催されました。このイベントは、LS 研活動の柱である「研究分科会活動」の1年の成果を、会員企業の皆様や有識者の方々と情報共有する場として毎年行われています。本年も2015年度に活動した18テーマの研究分科会について多彩な成果発表が行われました。

LS 研幹事長ご挨拶

株式会社日本アクセス
占部 真純 氏



皆様、こんばんは。ただ今ご紹介に預かりましたように、第18代幹事長を仰せつかりました日本アクセスの占部と申します。

私は1979年入社です。LS研が設立された1978年の翌年に社会人として一步を踏み出しました。それ以来、今年で37年間、ずっとIT畑に関わっています。

先ほど、石黒先生の大変面白いご講演の中に「千年後」という話がありました。自分が入社した37年前を振り返ってみただけでも、このIT分野はとんでもなく進化しております。我々が入社した時代はとにかく人が一生懸命やっていた仕事をコンピュータに置き換えて合理化すると

いう時代でした。しかしながら、皆様もご存じの通り、今では合理化の時代からITを使って付加価値を付ける時代が変わってきています。

本日は6つの分科会の発表を聞かせていただきました。どの発表も未来に向けて示唆に富んだとても良い内容でした。LS研は、若い皆様がいろいろな会社のメンバーと1年間の研究活動を通じて、何か一つでも成果を持ち帰っていただくことを支援する組織だと思っています。

大変微力ではございますが、これからのLS研の発展のために、しっかり頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



研究成果審査 受賞分科会

LS研幹事による審査では、先見性／独創性／有用性などを評価基準に、5編が選出されました。また各会場の審査委員により、会場ごとに発表賞が選出されました。

報告書審査

Leading-edge Systems 研究



オープンデータの
活用可能性に関する研究



Leading-edge Systems 研究



SDI に向けたネットワークの検討



事業継続へ向けたサイバー攻撃の早期対策の研究



Leading-edge Systems 研究



システム運用時の障害や
性能低下などのトラブルを事前に
予防・予兆回避する技術の研究



上流工程から取り組むテストプロセスの体系的改善



発表審査

効果的なビッグデータ利活用と
その基盤となる
データマネジメントのあり方研究



現行仕様踏襲を前提とした
システム再構築における
現行調査手法の研究



情報漏えい防止と
活用に関する
情報システム部門の
役割について



最優秀賞受賞分科会 研究概要

Leading-edge Systems 研究



オープンデータの活用可能性に関する研究



1 背景

オープンデータの活用により、社会改革・新ビジネスの創出が実現されてきている。しかし、データの出し手側、受け手側双方の機会が高まってきているにもかかわらず、国内でオープンデータを活用してビジネス化に至った事例は少ない。ビジネス活用事例が少ない理由は、企業が「オープンデータのビジネスへの可能性が分からない」ため、オープンデータ活用に二の足を踏んでいるからだと考えた。

そこで、本分科会は、オープンデータ活用の課題と解決策を明らかにし、企業におけるビジネスとしての利用価値の検証を行うことにした。

2 アプローチ／内容

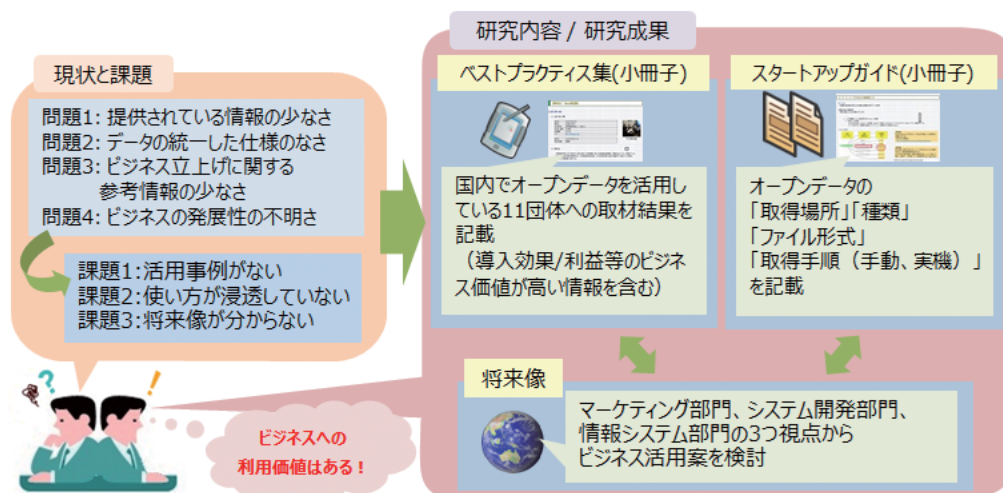
オープンデータの活用を推進する上での問題点は、「提供されている情

報の少なさ」、「データの統一した仕様のなさ」、「ビジネスの立ち上げに関する参考情報の少なさ」、「ビジネスの発展性の不明さ」の4点であると考えた。上記の問題点に対して、オープンデータに対する知識のない企業が、オープンデータを活用するための課題として、「参考になる活用事例がない」、「オープンデータの使い方が浸透していない」、「オープンデータの将来像が分からない」の3つを設定し、研究を行った(図1)。

3 成果

(1) ベストプラクティス集(小冊子)

ベストプラクティス集は、国内でオープンデータを活用している11団体へのヒアリングを通して得られた、ビジネス利用までのノウハウをまとめた小冊子である。本分科会メンバーが、オープンデータへの取り



■図1 研究のアプローチ / 研究内容のイメージ

組みについて実際にヒアリングを実施し評価を行った。本資料は、どのような効果が得られるのかなどのビジネス化につながる情報を収集し、ビジネスモデルやサービス内容のみならず、そのサービスを支える裏側の仕組みをオープンデータに特化して記載しているため、有用性が高いと評価する。

(2) スタートアップガイド(小冊子)

スタートアップガイドは、オープンデータの基本知識を習得するための小冊子である。取得場所は国の各府省、自治体、民間団体の他、海外のサイトも載せることで網羅性を高めた。取得手順は、ビジネス企画・検討段階の手動調査(図2)とシステム開発検討段階の実機調査の2つの方法によるデータ取得の手順を実行し、発生した課題、対処方法を記した。本資料は、初心者がオープンデータを取得する際に直面する疑問を解

消するのに有用であると考えている。

(3) 将来像

本分科会では、オープンデータ本来の価値を最大限活用できる将来像を、自由に使いやすいオープンデータ環境が整うことで、データ提供者とデータ利用者が密接につながり、データ流通が円滑化された状態であると考えた。また、「①マーケティング部門」「②システム開発部門」「③情報システム部門」の3つを軸とする将来におけるビジネス活用案を、以下のとおり示した。

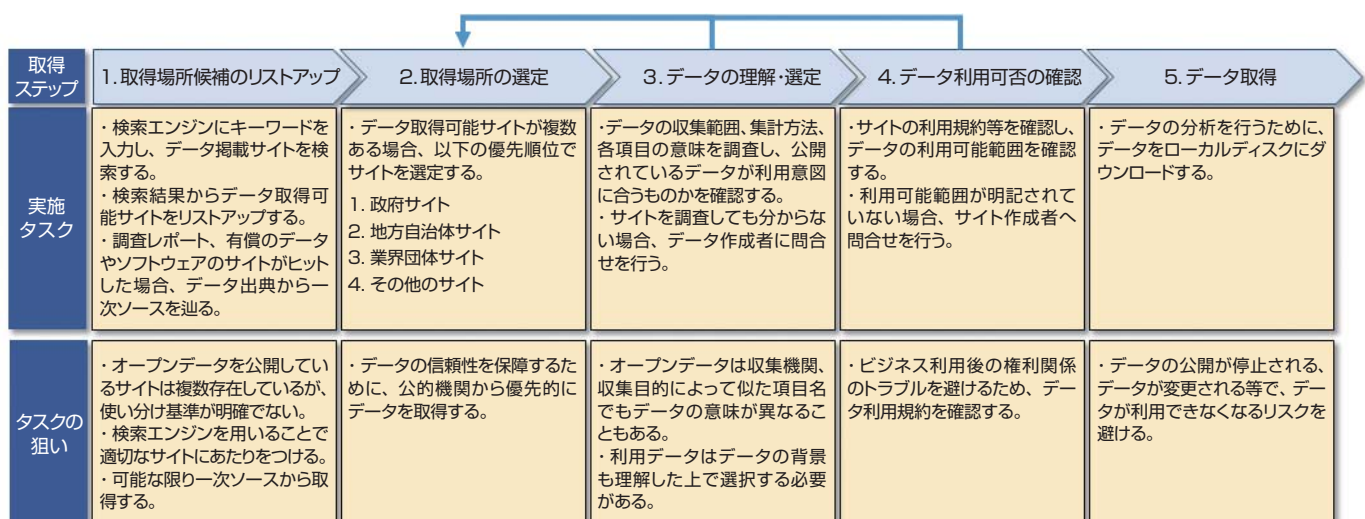
- ① データ利用者が必要とする分析軸の活用によるマーケティング精度向上の実現
- ② データ活用ビジネス創出支援プラットフォーム
- ③ 攻めのIT投資を実現する自社保有データのオープン化

代表者コメント

昨今、オープンデータへの注目が高まるなか、本分科会では「オープンデータがビジネスに活用できるのか」をテーマに研究活動を行ってきました。企業へのヒアリング、先進的技術の実機検証など様々な苦労がありましたが、普段の業務では体験できない貴重な経験を通じて、一人ひとりが大きく成長できたと思います。



市原 泰介 氏
日本システム技術株式会社



■図2 オープンデータ取得の推奨手順